

# 火の川



宇土鶴城中3年  
堀川桃子さん作



3千人の来場者で賑わう～第14回平家いずみお茶まつり



源平合戦時代絵巻～勇壮な武者姿【写真提供：泉支所さま】

第263号

【編集発行】熊日宮原販売センター

八代郡水川町柵16-3

TEL 0965-62-3868 Fax62-2867

E-mail kuma-miya@rainbow.plala.or.jp

2019.7.14



## 竹山社長、子記者クラブと(株)ぎろを語る

～竜北中・起業体験推進事業～



て 竜北中学校にて、起業などについて体験を話す竹山実李さん

7月6日、竜北中において「私たちの手で地域の課題を解決しよう」をテーマに、講演を行った。これは、同中が「小・中学校等における起業体験推進事業」の指定を受け、授業参観の一環で開催。全校生徒、先生および保護者ら約250人が参加した。

主な内容は、子ども記者クラブ、わらしべアイスの商品開発、まちの課題解決・探究コースの1年目、そして2年目以降と会社設立を含めた活動だ。

これまで何度か人前で話すことはあったが、1人だけで話すのは初めて。広い体育館の中、自分の声だけが聞こえるため余計に緊張した。

しかし、中学生たちが一生懸命聞いてくれていたので、緊張よりも「しっか

りしなければ」という思いが強まり、何とか最後まで話すことができた。

生徒を代表して3年生の船江幸彦さんが、「2030年から逆算して考えられた計画や、対面販売の4つのポイント等をこれからの活動や日々の生活に生かしていきたい」と感想とお礼を述べた。

今回の反省として、映像を流す時に椅子から移動しなかったり、しっかり話を聞いて考えてくれたお礼の言葉に返事ができなかったりと、臨機応変に対応できなかったことが多かった。

次回、7月下旬の県外研修では、名古屋市立大学の授業で話すので、今回の失敗を生かしたい。

【熊本高専2年：竹山実李】



## 最高の応援演武ができたよ！

宇土鶴城中体育大会

5月19日に中学校の体育大会が行われ、私は白団の副団長を務めた。一番の見せ場である5分間の応援団演舞のために、団員に



応援団演舞(中段右が堀川桃子さん)

試行錯誤しながら振付を教えて来た。10連休で演舞の練習時間が充分取れず、休日にも練習を重ねた。

直前まで動きが合うか心配だったが、本番は最高の演舞ができた。副団長として約280人の団員をまとめるは大変だったが、優勝できて嬉しかった。

また、当日は小雨が降る中、先生方が朝早くから運動場の水抜きなど、私たちが活躍できるように準備して下さった。支えてくれた仲間と先生方に、感謝の気持ちでいっぱい。

最高の体育大会だった。

【宇土鶴城中3年：堀川桃子】



## みんなで笑顔のゴール

東陽小中合同運動会

5月26日、東陽小学校グラウンドで、第6回東陽小中合同運動会が開催された。当日は天候に恵まれ、児童・生徒たちの元気あふれる入場行進から始まり、「Believe～みんなで向かおう笑顔のゴール～」の運動会テーマのもと、一致団結して競技に取り組んだ。

リレーや大縄跳び、ダンスなど練習の成果をしっかりと発揮し、白熱した闘いが見られた。保護者の声援が飛び交う中、最後まであきらめず自分たちの力を精一杯出し切り、運動会を楽しんだ。

合同運動会ならではの、小学生と中学生が一つの目標に向かって協力し合う姿は素晴らしいものだった。



元気よく入場行進する子どもたち

【写真提供：東陽支所さま】



## いつかずっと？

夏休みかったい！

毎月、熊日読者のご家庭へお届けしている中3クラブに加え、7月は2020進学ナビ(130ページ)があります。私立高校の制服や公立・私立の学校紹介など盛りだくさんです。

また、1学期の復習に最適な中1、中2クラブも今月発行で、こちらは熊日購読の有無に関係なくお届けします。

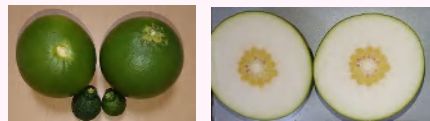
いずれも、ご希望の方は宮原販売センター(62-3868)へ申込み下さい。



## いわちゅの面白写真 ～皮の厚さだけは一人前～

先日、初めて晩白柚の袋掛けを手伝った時のこと。摘果をしながらもつたいない！と思うも、1本につき20個くらいが適当らしい。それにしても、晩白柚が大きく、すでに直径10cmほど。

何か遊べないかな？と思いきや可愛いデコボコも持ち帰り、輪切りにしてビックリ。皮だけは、すでに一人前でした(ー)；



相続登記、法人登記、訴訟業務、成年後見業務など、お気軽にご相談ください。

川口司法書士事務所

川口邦則(熊本県司法書士会会員)

住所 水川町今187番地2

電話 0965-62-1770

メール kkwaguchi.gnn@pearl.ocn.ne.jp



## ひかわ整骨院・ボディバランスひかわ

開院から6周年を迎えました。

心から感謝申し上げます。

水川町、東陽町、泉町、龍峯地区の皆様、いつもありがとうございます。

お盆までダイエットキャンペーン中です。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://bbhikawa.com/kotsuban.html>



期間限定キャンペーン

骨盤矯正ダイエット 期間限定お試し価格

全身矯正プログラム

通常価格 7020円 → 4200円 40% OFF

今すぐLINEで予約する



水川町野津 858 TEL 0965-62-1885



# ファーストペンギンになる④

## 1・3期生が連携して農作業など取り組む

雨天により作業が遅れ気味ながら、黒大豆蒔き第2弾完了



中耕機で耕した後、大豆を蒔く子どもたち

6月23日と7月7日の両日、国道3号沿いの未耕作地で、エリانسスの定植と丹波の黒大豆蒔きを行った。

エリانسスは5月に東海大学農学部より株分けしてもらったもので、昨年実験栽培した黒豆は枝豆用。5月に蒔いたものを含め、8月上旬から9月までの出荷を見込んでいる。

### ◆作業服が欲しいよ♪

今年の3月からまちの課題解決・探究コースの1・2・3期生は、出来る範囲で連携して事業に取り組むことが決まり、3期生の稲本美聖さん(氷川中1年)が榊水川(氷川)の副社長に就任した。

このような経緯もあり、2回の農作業にはいずれも3期生の応援があり、とても助かった。特に7月7日は朝から気温が高く、暑い中で3時間の作業。何とか無事に活動が出来て良かったと思う、黒大豆の成長を楽しみに今後も農作業に励みたい。

なお、7月6日の1・3期生合同学習会において、3期生から作業服の要望が出たため、1期生と同じものを購入することになった。

【白百合高1年:上田友香】

### ◆参加者の感想

エリانسスの配置と畝の数などを考える時、日当たりや通路の確保はもちろん、ごみを捨てられないような工夫や、写真を撮る時に逆光にならないような様々な視点から考えるのが大変だった。また、協力者にやって欲しい事を分かりやすく説明することを通して、人を動かすことの大変さを知った。

【熊本高専2年:竹山実季】

1期生3人とぼくと弟で黒大豆をまいたが、7月3日の大雨で土が固くなったので、くわで土をほぐすことから始めた。時間がなかったが、何とか大豆を植える穴が掘れたのはうれしかったし、楽しかった。くわを上から下ろすと力を使うので、土をなでるように動かした方が良かったことが分かった。

【東陽小6年:三好逞心】



防草シートを使いエリانسスを定植



ぼくたちも作業服が欲しいよ♪



## 苦手意識がなくなった!?! ~小論文の書き方学習会~

5月と6月の夜、熊日宮原はん売センターで行われた小論文学習会に3日間参加した。参加したのは、小学生4人と中学生1人の5人だった。

まず、書きたい小論文のテーマを決め、64マスのマンドラチャートシートの真中にテーマを書いた。そして、そのテーマに関係することを周りのマスにアイデアを出しながら、少しずつ書いていく。初めての作業だったので、アイデアがなかなか出ずに時間がかってしまった。

文章を考えるのが苦手な私だが、この作業を行ってみると自分の考えていることをシートに表すことができた。

頭の整理がしやすくなったことで、書きたい内容をしぼることができた。そして、その後の小論文は、スムーズに書くことができた。

また、学習会では毎回おやつ休けがあった。私の中では、お楽しみの時間だ。おいしいおかしを食べたり、お茶を飲んだりしながら、参加した人たちと学校の話などをしたりした。リラックスできて、とても楽しい時間だった。

今回学んだことで、文章を考える苦手な気持ちが、少しへったような気がする。

【宮原小5年:四宮咲弥】



書いた内容を発表する四宮咲弥さん

売地・売家を募集しています。  
価格査定は、無料です。  
氷川町宮原566-2  
アシスト氷川 代表 江壽 悟  
TEL 0965-62-1711

## 新連載

## 【人生のまくら話①~鈴嶋克太】 高校の「数学」は、ただの『算数』? ~「学力」のいろいろ~



農作業を手伝う鈴嶋克太くん

子ども記者OBで、東京大学に進学した鈴嶋克太くん。休暇時に日本のみならず世界各地へ足を運び、もっと世界を知りたい!と同大学を休学し、昨年9月からアメリカへ留学している。

そんな彼が5月に帰省し、宮原販売センターに来てくれて、農作業の手伝い後に歓談。その折、アメリカでの貴重な学び等を子ども達へ紹介して欲しい!と依頼したところ、後輩たちの役に立てるなら♪と快諾。今月号から、ミニコミ紙で連載をスタートする。

ちなみに、タイトルの「人生のまくら話」とは、思いついたことを落語の「まくら」的の場の空気を盛り上げると、彼がまだ若くて人生の「本題」を経験していないの意。

①覚える~従来の小中高での学習~覚えることにより、コミュニケーションの下地を作る。

中学校や高校の「数学」という科目、実はただの「算数」程度のものであろう。最近、学力の発展には三段階あるのではないかと、思うようになった。僕は高校までは、「覚える」ことばかりやってきた。教科書の内容を覚えて、ひたすら問題に答えるわけだ。

②主張する~大学で想定されている学習~覚えたことを使って論文などで自分の意見を主張する、人との議論の媒体として覚えたことを使う。

一方、大学の学びにおいては「主張する」ことが要求される。留学先のアメリカの大学では論文の課題が山ほど出る。昨年の11月など、僕は8つもの文章を書かされた。

内容や字数は様々だが、いずれにせよ覚えた事柄、理論を使って情報を収集・分析し、論理的に主張することが大事だ。また授業でのディスカッションの際にも、同様のプロセスを経る。これらのような知的営みを、「学問」と言って良いだろう。



この様に考えると、高校の「数学」がただの「算数」と呼べるのも頷ける。なぜなら、結局は計算方法や基礎的な幾何の定理等を練習しているに過ぎないからだ。

同様に、高校までの「歴史」も「歴史学」とは言えないであろう。年号や出来事、人物を時系列で整理し覚えるのが「歴史学」なのではない。「歴史学」の本質はむしろ、人々の主張の背後に潜む時代背景を明らかにすることにあると思う。

例えば、ある人が「人間の本性は生

存を懸けた闘争心である。故に国家間の戦争は避けられない」と言ったとする。この主張の背景には、恐らく国家間の戦争が頻発していた時代背景があるはずだ。

別の言い方をすれば、ある人の過去の経験、同時代の出来事、社会的風潮などがその人の意見、性格などを形作る。このように、「歴史学」は他者とよりよくコミュニケーションし、お互いをよりよく理解するための知的営みである。歴史事項を覚えることが歴史学なのではないのは、明らかだ。

③損得の検証~実社会に出てからの学習(仮説を立て、情報収集し、事業を提案実施、事業実施後、その効果を検証する)~大事なことは、社会の要請に応えられるかどうか。「主張したことが学術的である(科学的である)」というだけでは不十分。



7月下旬までフィリピンで活動中

実社会に出れば、意見を主張するだけでなく、「損得の検証」という段階が求められる。今、フィリピンのインターンシップで、貧しい農村の所得向上に取り組んでいるが、現場で期待される学力はより一層高度だ。

「学問」においては、取り敢えずデータを集め、論理的に分析・主張できれば、その成果は学術的・科学的であるとみなされる。

一方、現場においては、その主張が社会的に正しいか、正しくないかが問われる。正しくない場合、事業計画は実施されないのである。

ながらも「覚える」ばかりで最近ようやく「主張する」ことを身に付けた僕にとり、現場での仕事は困難の連続だ。さてどうしよう、と頭を抱える毎日である。

売地(網走)	売地(鹿島)	売地(宮園)	売地(新村)
132年(老地)	91年(老地)	75年(老地)	150年(宅地)
264万円	550万円	523万円	500万円
■東北東小・■東北中校区・上下水道可・有佐 駅車10分	■北西部小・■東北中校区・上下水道可・有佐 駅車10分	宮原小・氷川中校区・上下水道可・有佐 駅車10分・仲介	宮原小・氷川中校区・上下水道可・有佐 駅車5分・売主